

いことでした。「長七」では毎日至れり尽せりのおもてなしで、どのようにお礼申し上げたらよいか分からないほどです。

奥飛騨温泉郷と、小京都とも称される高山を別れてから、京都大学宇宙物理学教室、花山天文台、三鷹の東京天文台、岡山天体物理観測所を訪問しました。まるで飛騨天文台のように親切に迎えて下さり、行き届いたお世話をして下さいるので少しも困りませんでした。

二度も日本を訪問したことは、私にとって一番貴重な

楽しいことでした。日本の天文台と日本の天文学者、日本の山紫水明の景色と日本の皆さんの親切な友情、これらは私の心に美しい印象を残しました。いつまでも忘れることが出来ません。

私の知った日本の友人たち、飛騨の川口、神野、船越、黒河と他の皆さん、民宿「長七」の唐谷一家、京大の小暮、上杉、花山の中井、東京天文台の守山、西、牧田、岡山の清水(実)、あなたがたのお名前を心にちゃんと覚えてあります。いつの日かまたお会い致しましょう。

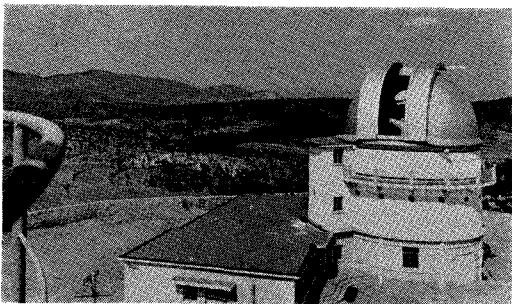
飛騨天文台に呉さん李さんをむかえて

飛騨天文台 川口市郎

昭和54年10月8日、中国科学院天文視察団の一行が飛騨、花山両天文台を訪問した。紫金山天文台副台長趙さんを団長とする一行7名で、中日科学技術交流協会の黒田百合子さんが一行の御世話をされていたようであった。しかし一行の中には、日本人よりも日本語をよくしゃべる劉彩品さんがおられたので、会話には全く不自由はなかった。このとき一応形どおり天文台の案内をしただけで一行は次の訪問先へと急がれたのだが、この時趙さんや劉さんが飛騨天文台はよくもこんな小人数でやってゆけるものだと言っておられたのを記憶している。

翌55年2~3月頃、日本学術振興会の加藤さんから電話があり、中国人学者が2名飛騨に滞在してドームレス太陽望遠鏡について勉強したいといっているのを受入れてもらえないかと話があった。全く突然のことでもあり、当時ドームレス望遠鏡は時々故障をおこすおそれもあり、またテスト観測中でもあったのでためらいの気持もあったが、天文台の人達の積極的な意向も考慮して受入れを決心した。ただ4月受入れは梅雨にかかることもあって9月からならんと返事しておいた。

飛騨天文台ではお客様には必ずサインして頂くことにしている。中国人学者呉さん・李さんのサインのコピーを示すが、特に呉さんの達筆が目につき、さすが漢字の



雲南天文台、雲南省昆明市郊外にある

55.9.24

重訪飛騨
李 彩 品

55.9.24

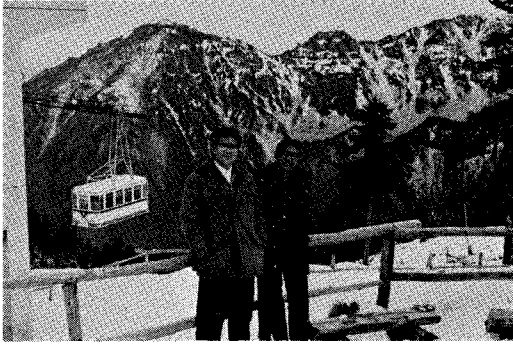
李 挺 — 南京天文儀器廠

我仍非常高兴能在 Hida 天文台學習和工作一段時間，
希望我們的這次訪問有助於加強中日兩國天文
界之間的友誼。

呉さん、李さんの署名(飛騨天文台サイン帳より)

本家である。呉さんはさきへのべた天文視察団に入っておられたのは失念していたが、その悠揚せまらざる中国的大人の風格・李さんの天真爛漫・直情径行の人柄の組合せという中国側の配慮には敬服した。このお二人、飛騨天文台滞在中はドームレスでの観測はもとより文献の複写、さらには観測技術の詳細について、船越・黒河両君にとことんききただし、両君ともいささかあきれ顔であったが、中国天文学を背負う熱情のすさまじさには感服したようである。

ご両人が特に気に入ったのは民宿「長七」の若奥さんの親切であろう。天文台で早朝観測をするときの宿泊を除き、いつもは麓の民宿に下宿し、朝夕の往復は天文台の通勤ジープに便乗することにもしてもらった。この年は9月から11月にかけて屢々連休があり、李さんは自分は日本に観光に来たのではないと、日本の祝日の多さを嘆いておられた。連休にはご両人は「長七」の若奥さんのお伴をして高山見物、または山での栗拾いなど全く家族の一員としてのもてなしを受けた。これははじめての経験として大変面白かったようである。言葉がうまく通



新雪の新穂高にて、右が呉さん、左は李さん

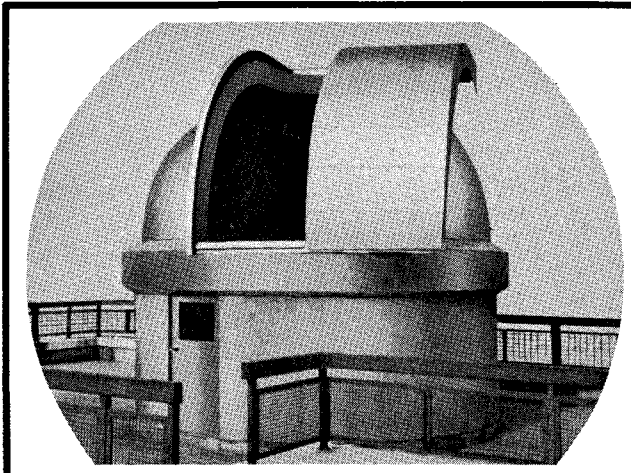
じなくとも、手まねや漢字による意志疎通により、“長七”一家との交流は呉さん・李さんにとり、日本滞在中の最も良き思い出として残るであろう。なおこの民宿は天文台に来る外人が屢々利用するので、その宿帳に“国籍”という欄があるという日本でも珍しい国際的民宿である。

呉さん・李さんにとり最も残念であったのは今年の異常冷夏であろう。事実去年は7月、8月とも天候は非常に悪く、9月に入ってやや回復した。しかしながら時たま訪れる晴天でもシーイングは大変悪く、ドームレスの

良い所をみてもらえなかったのは私も大変残念に思っている。こんな時私であれば、悪いシーイングでもまって、すこしでも良い瞬間を狙うのであるが、呉さん・李さんは電気もったいないからといってすぐ観測を中止してしまう。こんな所に日本と中国の国情の相違が感じられた。

飛驒天文台での2ヶ月の滞在はあっという間に終り、呉さん・李さんはわれわれにもさまざまな思い出を残して去って行かれた。今後日本の天文台や大学に外人が来る機会がふえるであろう。国際交流が今はやりの言葉という“ソフトウェアによる国防”のほんの一助にでもなればこんな嬉しいことはないと思えるのである。

最後に呉さん・李さんの滞在中、労をいとわずいろいろと面倒をみていただいた日本学術振興会・人物交流課の加藤氏、飛驒天文台の船越・黒河両氏、花山天文台の中井善寛氏に深く感謝したい。また京大・宇宙物理学教室では電算機による観測データ処理の方法を指導していただいた上杉明氏、岡山天体物理観測所まで同行、マグネットグラフを実地に解説していただいた東京天文台の牧田貢氏をはじめとして実に多くの方々のおかげで、呉さん・李さんの滞在が実り多きものになったことも付記しておきたいものである。



★営業 ASIBO 品目★

天体望遠鏡と双眼鏡
各種部品と撮影用品
ドームの設計と施工

ASTRO 光学工業株式会社

〒170 東京都豊島区池袋本町2-38-15

☎03(985)1321 振替口座東京5-52499番

LN-100S型 (精銳の超集光)
(D=103mm) (F=5.8)
ガイドインクネローブ
ガイド用マウント(別売)

極軸望遠鏡内蔵

写真はS型アルミ三脚

★新総合カタログご希望の方は切手300円を同封下さい。
★全国有名デパート・光学品取扱店でお買い求め下さい。